

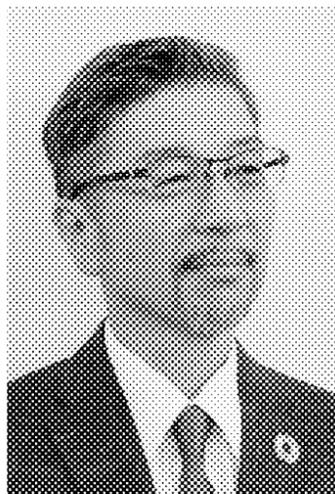
瑞光はユニチカのспанレース不織布事業買収で基本合意した。ユニチカが撤退を決めた繊維事業をシキボウやセーレンなど同業者が買収を決めた中、おむつや生理用ナプキンなどの製造機メーカーである瑞光は子会社のCOTEX(岡山県倉敷市)を受け皿に引き継ぐ。おむつなどにспанレース不織布を用いるつながりがあるとはいえず、瑞光の梅林豊志社長は「異なる業界による買収がキーポイント」と強調する。買収の狙い、期待する効果を梅林社長に聞いた。

―買収の経緯は。市場開拓の余地がある。「コットンメーカー。生産するユニチカ買収のため2024年の垂井事業所(岐阜県に設立したCOTEX 垂井町)を見学したがコットンをユニチカ 改善すべき点もある」のспанレース不織布 一どう市場開拓に使うってほしいと考え するか。

―使った時にユニチカの 「ユニチカのспанレース不織布は国内のからアクションした。汗ふきシートやフェイспанレース不織布は スバック向けが中心な

# спанレース不織布 海外開拓

瑞光社長 梅林 豊志氏



のに対し、当社のおむつ・生理用ナプキン製造機は海外が中心。当社のユーザーである欧米やアジアの衛生用品メーカーに売り込む。ケミカル素材からオーガニック素材への入れ替え需要が高まっているのも追い風だ」

## 機械メーカー視点で改善

―気通貫が強みに持、安定供給につながる。吸水性や撥水性などの高機能材料の開発も効率的にできる」

―異業種での経験をどう生かしますか。

―機械メーカーとして素材を扱うのは面白く感じる。多層化、表面と裏面の取り換え、伸縮性ある素材などに逆転の発想で取り組めると考える」

―工場の改善は。24年に導入した最新鋭の3号機があるが、1、2号機は老朽化している。垂井事業

―高品質の原綿をいかに調達できるかが重要だ。原綿の脱脂工程はCOTEXだけでは資すれば伸びる潜在能力を持つ。スリット工程などは増強する」

―課題は。

「高品質の原綿をいかに調達できるかが重要だ。原綿の脱脂工程はCOTEXだけでは資すれば伸びる潜在能力を持つ。スリット工程などは増強する」

力が要だ」

### 記者の目

同業他社との差別化がカギ

瑞光はユニチカの繊維事業撤退の前から素材分野を事業に取り込もうとしており、買収後も瑞光の事業とバラバラになるリスクは少ないと考える。むしろ今回の買収で一気通貫の事業体制が築け、機械メーカーという異なる業界の視点から歩留まり向上やロス削減などの改善が図れる。同業者が買収するほかの繊維事業とどのような違いを生み出しているのか注目される。

(大阪・市川哲寛)